



かかず ゆうこ
嘉数 悠子 氏

天文学者

【略歴】

天文学者。専門は、銀河の形成と進化。
国立天文台ハワイ観測所すばる望遠鏡アウトリーチ・スペシャリスト。

沖縄県出身。アメリカ航空宇宙局 (NASA) が主催したスペースキャンプに参加したことがきっかけで、宇宙に携わる仕事に就きたいと考えるようになった。沖縄尚学高等学校卒業後、東北大学理学部に進学。入学時は第2志望の化学系に所属していたが、翌年転系試験を受けて物理系に転じた。東北大学理学部宇宙地球物理学学科卒業後、ハワイ大学マノア校大学院に進学し、修士号及び博士号 (Ph.D.) の学位を取得。

2008年からフランスのパリ天体物理学研究所で、2010年からカリフォルニア工科大学で、2011年からシカゴ大学で天文学の研究に携わり、2013年9月より現職。

※沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
公式サイトより



ニコラス・ラスカム 氏

ゲノム・遺伝子制御システム研究者

【略歴】

ケンブリッジ大学にて自然科学の学位を取得後（1993-1996）、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンにてJanet Thornton博士のもと、DNA結合タンパク質の特異性の基礎に関する研究を行い、構造生物学の博士号を取得（1996-2000年）。その後、Mark Gerstein博士と共にAnna Fuller Fund博士研究員としてイェール大学に移り、酵母の遺伝子制御に特に重点を置いたゲノム研究に移行（2000-2004年）。自身の最初の研究グループをEMBL-European Bioinformatics Instituteにて立ち上げ（2005-2012年）、ゲノムと遺伝子制御の研究を継続した。2012年にロンドンに帰国し、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの計算生物学講座およびフランシス・クリック研究所のウィントン・シニアグループリーダーに着任。2021年には、ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニットの教授としてOISTに着任し、翌2022年から2024年まで研究科長を務めた。OISTでの着任を機に、海洋プランクトンのゲノミクスを研究している。

※沖縄科学技術大学院大学（OIST）
公式サイトより



みずたに けいいちろう

水谷 桂一郎 氏

米州法人営業部部長兼三菱UFJ銀行シカゴ支店長

【略歴】

JCCC（シカゴ日本商工会議所）コミュニティ委員会委員長
（兼60周年記念事業実行委員長）などを務める。

※シカゴ日本商工会議所（JCCC）公式サイトより

写真

まつばらみやこ
松原 都 氏

M-Squareシカゴ創業者

【略歴】

日本で山一証券勤務を経て、夫の海外赴任に伴いシンガポールへ移住。その後、アメリカの永住権を取得し、シカゴへ移住した。

シカゴのフィールド自然史博物館では日本文化に関するボランティア活動を行い、有田焼の香蘭社や人間国宝・柿右衛門氏を招いた文化交流事業を実現。

2000年には寿司ケータリング事業を共同創業し、高級ホテルや社交クラブ向けのBtoB戦略により事業を拡大、2016年に事業売却を果たした。

2012年から立命館守山高校のシカゴ研修をコーディネートし、多くの高校生の国際人材育成に貢献。

現在はシカゴと日本を行き来しながら、教育、人材育成、文化交流、地域活性化分野で幅広く活動している。



こまつ みわ
小松 美羽 氏
現代アーティスト

【略歴】

長野県出身。女子美術大学短期大学部卒。
山犬・狛犬・神獣をモチーフにした作品で知られる。
世界各地で個展・ライブペインティングを開催し、
大英博物館などにその作品が収蔵されている。

坂城町特命大使。女子美術大学特別招聘教授。
東京藝術大学非常勤講師。
Maison Christian Dior オフィシャル・アンバサダー。
環境省「つなげよう、支えよう、森里川海プロジェクト」ア
ンバサダー。

※”The Japan Times for WOMEN SUMMER 2017”に
掲載のインタビュー記事より。



※国連フォーラム公式サイトより

こうの つとむ

河野 勉 氏

国際連合事務局軍縮局 上級政務官

【略歴】

大阪生まれ。

早稲田大学政治経済学部政治学科卒、ハーバード大学地域研究(中東) 修士。

1982年外務省入省。中近東アフリカ局中近東一課勤務後、アラビア語官補としてシリア、エジプト、アメリカ合衆国で研修。1986年在イラク日本大使館二等書記官。1988年に外務省退職後、コロンビア大学中東研究所および日本経済ビジネス・センター客員研究員、ニューヨーク大学中東研究所客員研究員、ニューヨーク市立大学ラルフ・バンチ国連研究所研究員を歴任。1995年のP3国連競争試験に合格。

1995年国連大学本部学術部客員研究員として学術審議官を代行。

1998年から国連軍縮局事務次長室でPolitical Affairs Officerとして安全保障理事会を担当、イラク、北朝鮮、イラン、大量破壊兵器の不拡散問題に取り組む。



LALALA USA.COM 2024年12月23日付記事より
URL: <https://lalalausea.com/archives/60756>

みずたに ともしげ
水谷 友重 氏

TOYO TIRE株式会社 専務執行役員

【略歴】

兵庫県神戸市出身、神戸大学経営学部卒業。
1984年、日商岩井株式会社に入社（現・双日）し、主に鉱山用
タイヤ輸出業務で世界40ヶ国に出張。
1992年、ニッソーブランドの再構築の任を受け、米国赴任。
2000年、TOYO TIRE株式会社に移籍。
2005年にNitro Tire U.S.A. Inc.社長就任、2011年にTOYO TIRE
株式会社執行役員就任し、現在はTOYO TIRE HOLDINGS OF
AMERICAS INC.会長 & CEOを務める。

米国下院議会より卓越したビジネスリーダーシップへの特別表
彰（2013）、南カリフォルニア日米協会より「国際市民賞」
（2014）を受賞している。



伊藤園公式ホームページより
<https://www.itoen.co.jp/company/management/>
(2026年5月1日閲覧)

ヨウスケ ジェイ オーシャンブライト ホンジョウ
Yosuke Jay Oceanbright Honjo氏

ほんじょう ようすけ
(本庄 洋介氏)

北米伊藤園 (ITO EN INC) 代表取締役社長兼CEO

【経歴】

1966年東京生まれ。伊藤園の本庄八郎氏（現・取締役名誉会長）の甥であり、創業者の本庄正則氏の次男。
1990年 早稲田大学商学部卒、92年伊藤園入社（横浜での支店営業、商品企画部、量販店部を経験）、98年南カリフォルニア大学ビジネススクールにてMBA取得、2000年伊藤園U.S. Research執行役員本部長、01年ITO EN (North America) INC. 代表取締役社長兼CEO 現任

北米の伊藤園 (ITO EN (North America) INC.) の経営を長年牽引、無糖緑茶（特に「お〜いお茶」）の米国市場開拓に尽力。

（主な公職）バイデン政権レイモンド商務長官 諮問委員（22-24年）、East West Center理事



ヴァスコ・ヴァッシレフ氏

ヴァイオリン奏者・指揮者

【略歴】

ブルガリア出身。ヴァイオリン奏者及び指揮者。

8才でソフィア・フィルハーモニー管弦楽団と公演、レコードをリリース。

10才でブルガリア政府からの奨学生としてモスクワ音楽院に留学。数々の国際コンクール受賞後、1993年、23才で史上最年少の英国ロイヤル・オペラ・ハウス（ROH）のコンサート・マスターに就任。

2005年、ロイヤル・アルバート・ホールで指揮者としてデビュー及びROHのクリエイティブ・プロデューサーに就任。

2023年英国王チャールズ3世戴冠式のコンサートマスターに就任。

さらに出身国ブルガリアより文化大使に任命される。



https://globis.jp/person_articles/1290/より

いうえ みなこ
井植 美奈子 氏

海洋環境保護NGOの日本法人理事長

【経歴】

一般社団法人セイラズフォーザシー日本支局理事長。
東京生まれ、聖心女子学院初等科から聖心女子大学へ。
卒業後、ロンドンSotheby's 及び Inchbald にて装飾美術
を学ぶ。結婚を機にNYで生活。
帰国後、ディビッド・ロックフェラーJr.が米国で設立し
た海洋環境保護NGOのアフィリエイトとして2009年に一
般社団法人セイラズフォーザシー日本支局を設立。
水産資源の持続可能な消費をめざす『ブルーシーフード
ガイド』、マリンスポーツの環境基準『クリーンレガッ
タ』等のプログラムの開発、運営による啓蒙活動で持続
可能な社会の実現を目指す。

京都大学博士（地球環境学）
東京大学 大気海洋研究所 特任研究員

デニス・ヨシト・テラニシ

Dennis Yoshito Teranishi氏

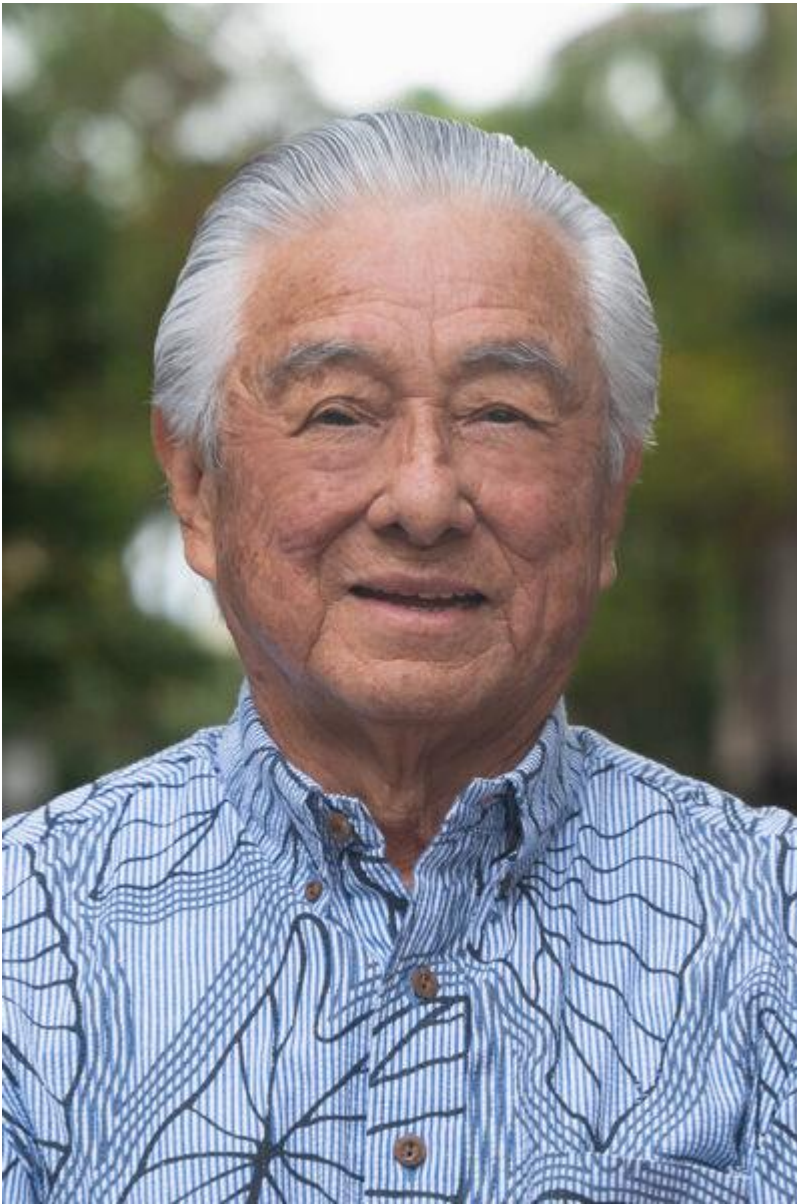
ハワイ 太平洋国際ハイテク研究センター(PICHTR) 会長

【経歴】

カリフォルニア州立科学技術大学で作物学を学び、ハワイ大学大学院で土壌化学・植物栄養学の修士号を取得。

農業分野の研究者としてキャリアをスタートし、農業関連企業や経営コンサルティング会社での経験を積んだ。その後、ハワイの老舗菓子メーカーであるハワイアン・ホスト社の社長兼CEOを務め、企業経営に携わった。

現在は太平洋国際ハイテク研究センター（PICHTR）会長として、日米間の科学技術協力や共同研究プロジェクトを推進。さらに、米日カウンシルの活動を通じて日系人コミュニティの発展や日米友好関係の深化に貢献し、その功績により旭日小綬章を受章



PICHTRサイトより